

日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL. 03-3503-2722 <http://www.jnpc.or.jp/>



撮影：川田 雅浩（毎日新聞社写真映像報道センター）

「籠池劇場」にカメラの放列

冗舌に答弁する森友学園の籠池泰典氏を記者席から報道陣が注視した。衆参両院の予算委員会で行われた証人喚問は計4時間にわたった。混乱はより深まる＝3月23日午前11時6分

「石原会見」で記録的な参加者数
質疑白熱、テレビ各局も生中継

森友学園問題と並んで大きな国内ニュースになっているのが豊洲市場への移転問題だ。3月3日、移転許可時の都知事である石原慎太郎氏が日本記者クラブの会見に登場した。関心は高く383人の多数が参加した。今世紀になって、小泉元首相の「原発ゼロ」会見の410人に次ぐ記録だ。

当クラブでの会見は石原氏からの希望だった。最初の知事選出馬表明、政治家引退会見と、当クラブは石原氏にとって節目での重要な舞台になってきた経緯がある。

ただ、選んでもらったのはありがたいが、「独演会になつてはダメ。なるべく多くの質問をぶつける」（司会の橋本五郎・企画委員）との方針でのぞんだ。その一方で石原氏は脳梗塞の後遺症もあり、医師付き添いで時間は1時間と限られた。石原サイドの要望で知事時代の会見動画も流したが、質問時間確保のため司会者判断で動画を一部カットする一幕もあった。結果は後半を質疑に当て、通常より多い18問を会場から受けることができた。

NHK、民放キー局のほぼ全局が生中継し、会見後も連日、緑の緞帳を背景にした石原氏の姿が何度かテレビで放映された。当クラブも含めたネットでの会見動画にも、カウントできるだけで総計約40万のアクセスがあり、大きな手ごたえを感じた。

ニュースの核にいる人物を会見に呼び、直接、質問をぶつける重要性を再認識した。

（土生修一）

約3億8000万の収支均衡予算を承認 システム関連に重点配分

日本記者クラブの2017年度予算と事業計画が3月28日に開かれた臨時社員総会で承認されました。

新年度予算での経常収益(収入)の総額は3億8047万1000円で前年度に比べ1660万円減(4・22%減)となりました。収入は減少しましたが、人件費を中心に費用全般を削り、収支同額となりました。

プレス会員(法人会員と個人会員)と賛助会員を合わせた会費収入は、収益全体の82・63%を占めており、収益の主柱となっています。会費は約900万円の減少となりましたが、これは4月から個人D会員の会費を月6100円から5000円

に値下げした影響です。今回の値下げを契機にしてD会員の入会を増やし、将来的には会費収入増への反転をめざしたいと思っています。

貸室収入などの事業収益は前年度を参考にして計上し、収益全体の17・18%にしました。

経常費用は、10階ホール専用使用料などの借室維持費が支出全体の45・33%で半分近くを占めています。人件費は事務局職員の退職や定年による嘱託移行などで前年度比で1522万円減少となり、経常費用全体に占める割合は33・73%(前年度36・45%)となりました。

16年度にホームページと業務関連システムを大幅に更新し、17年度が

「新システム元年」になることから、システム保守関連費を増額しました。(21ページに正味財産増減予算書)

皆様へのお知らせ、お願い

新年度にあたり、あらためて会員の皆様へのお知らせ、お願いがあります。

◎新システム導入に伴い、今月から貸室の空き状況をウェブで確認できるようになります。従来のようにフロアマネジャーに電話する必要がなくなります。ただ申し込みは、これまで通り電話で受け付けます。

◎会員証を刷新しました。新会員証はプラスチック製で財布にも入りやすいカードサイズにしました。顔写真のデータをいただければ、新たに作り直します。

◎今月から個人D会員の会費を月

クラブゲスト 3・4
澤田秀雄 エイチ・アイ・エス会長・社長／川田達男 セーレン会長／福田円・法政大准教授／松尾豊・東大大学院特任准教授／エスベン・ルンデ・ラーセン・デンマーク環境・食糧相／ポール・マデン 新駐日イギリス大使／武井彰佳・学習院女子大准教授／フェリペ・ハラミージョ・コロンビア貿易振興機構総裁／中国経済学者代表团／会見余話

会見リポート 5・9
C・フラナガン・アイルランド外務・貿易相／W・L・スウィング・IOM事務局長／石原慎太郎・元東京都知事／内堀雅雄・福島県知事／宮坂学・ヤフー社長／永野健二・ジャーナリスト／古川勝久・国連北朝鮮制裁委員会元専門家パネルメンバー／独・仏・蘭3カ国駐日大使／飯島勲・内閣参事

試写会「娘よ」 渡辺良行 9

ワーキングプレス 10・13
森友学園 国有地売却問題
それは、1本の電話から始まった真相はいまだ闇の中

朝日新聞社 吉村治彦
経産省施錠問題
閉ざされた扉に阻まれた取材 知る権利のため撤回要求続ける

東京新聞 吉田通夫
金正男氏殺害事件

「おっとり感」が招いた悲劇
共同通信社 磐村和哉

朴槿恵大統領罷免
混乱収まらぬ韓国 驚くべきメディアと市民のパワー

フジテレビ 磯部誠二

被災地通信 熊本地震から1年 14
住民生活の再生はこれからが本番
熊本日日新聞社 奥村国彦

リレーエッセー 15
「異論を言う勇気を持つ」—後藤田正晴さんの歴史観と憲法観
栗原 猛

書いた話書かなかった話 16・17
撃沈されたことを「やむを得ない」と一言 戦艦武蔵を造った男との1時間
大澤 賢

記者ゼミ 18

マイBOOKマイPR 19

賛助会員の会 19

会議報告／17年度予算書 20・21

写真回廊新執筆紹介 22



度、記者に」をキャッチフレーズに、会見参加、会議室・ラウンジ利用、無料試写会などの特典をアピールした内容です。事務局にありますので、記者OBの友人にお渡しください。

◎メール登録をお勧めします。
氏名と会員番号を左記のアドレスにお送りください。
kaiken@jnc.or.jp

登録者にはメールで会見の案内が送付されます。メールなら、郵送が間に合わない急な会見通知も届き、ハガキでは載せきれない会見の詳しい内容も読むことができます。

またウェブの「会見申し込み」から事前の申し込みもお願いします。
◎会費は、預金口座振替(自動引き落とし)が便利です。振替なら、振り込みの場合にかかる手数料が不要です。

(専務理事 土生修二)

ポール・マデン 新駐日イギリス大使



25年ぶりの日本勤務。「新しいビルが多く建設されたが、昼の定食は1000円のままで」と日本語で笑わせた。Brexitで進出日本企業の不安は大きい。EU離脱後、各国との自由貿易協定交渉で「日本が優先されることは想定できる」と英外交官らしい慎重な表現。

■3・9(木) 記者会見／司会：福本容子委員／通訳：宇尾真理子／出席：63人

武井 彩佳 学習院女子大学准教授



ドイツ現代史の専門家。ドイツとイスラエルの戦後和解の進展は、冷戦下での双方の利害一致が最大の要因と説く。「ドイツはイスラエルへの経済軍事支援を通じ、西側の一員としての地位確立を目指した。イスラエルは過去の問題よりも国家の建設と存続を優先した」

■3・16(木) 著者と語る『＜和解＞のリアルポリティクス—ドイツ人とユダヤ人—』／司会：倉重篤郎委員／出席：34人／ウェブサイトの「会見詳録」に掲載予定

フェリペ・ハラミージョ コロンビア貿易振興機構総裁



和平合意とノーベル平和賞が大きく報道され、コロンビアのイメージ一新の好機。「長い内戦が終結し、紛争後の時代が始まった。歴史上、最も良い時期だ」。麻薬や暴力のリスクを聞かれ「皆さんの認識とコロンビアの現実の間にはギャップがある」と訴えた。

■3・22(水) 記者会見／司会：中井良則顧問／通訳：阿由葉恵利子／出席：25人

中国経済学者代表团

周強武 財政部国際財経センター主任(団長)

樊綱 中国総合開発研究院院長
中国人民銀行貨幣政策委員会委員

趙晋平 国務院発展研究センター対外経済研究部部長

畢吉耀 中国マクロ経済研究院副院長

劉尚希 財政部財政科学研究院院長



財政部や国務院のエコノミスト5人が中国マクロ経済を分析した。貿易関係の質問に「RCEP(東アジア地域包括的経済連携)の交渉は17年末に終わる」(趙さん)。格差を聞くと「5カ年計画で7000万人が貧困から脱却する」(畢さん)。債務の大きさを問うと「40%未満であり非常に健康的だ」(劉さん)。皆さん自信満々の答え方だった。

■3・28(火) 記者会見／司会：坂東賢治委員／通訳：江草裕子、張煒／出席：61人

澤田 秀雄 エイチ・アイ・エス会長・社長



旅行会社H.I.S.の創業者。グループ傘下のハウステンボス社長に就任後、18年間続いた赤字を半年で黒字化した。ロボットが接客する「変なホテル」の開業、自然エネルギーや植物工場分野にも進出する。「日本は生産性向上以外に世界で勝てる道はない」

■3・8(水) シリーズ企画「チェンジ・メーカーズに聞く」⑪／司会：安井孝之委員／出席：70人

川田 達男 セーレン会長



福井県の老舗繊維メーカーだが30年前に倒産寸前に。打開策としてITを駆使し、顧客が色や形の組み合わせを47万通りから選べる新オーダーメイドシステムを開発。近年は車輻資材など非衣料分野にも進出。「繊維には無限の可能性がある。これからも挑戦を続けたい」

■3・17(金) シリーズ企画「チェンジ・メーカーズに聞く」⑨／司会：播摩卓士委員／出席：50人

福田 円 法政大学准教授



台湾留学経験もある中台関係の研究者。「中国の『一つの中国』原則と米国の『一つの中国』政策にはズレがあるのに、日本では混同されている」と指摘。トランプ・蔡英文の電話会談は「これだけで米国が従来の中国政策から逸脱したと判断するのは困難」と。

■3・2(木) シリーズ企画「トランプ政権：米国と世界の行方」④／司会：坂東賢治委員／出席：60人

松尾 豊 東京大学大学院特任准教授



人工知能(AI)研究を引っ張る研究者。「機械が人間の代替をできないのは、眼がないためだ。ディープラーニングによってコンピューターは『眼』を持った」と、大変革時代の到来を预言する。日本にとってはチャンス。「若手に任せよう」が成功への道と説く。

■3・3(金) 記者会見「AIと日本企業の競争力」／司会：水野裕司委員／出席：62人

エスベン・ルンデ・ラーセン デンマーク環境・食糧相



“循環経済”の効用を力説。資源を有効活用し、環境への負担を減らすことを理念とする。食品廃棄物を例にとり、2010年から5年間で25%削減した、と成果を強調。足元の問題から国民の意識を高め、農林畜産業など主要産業へ応用していく戦略のようだ。

■3・6(月) 記者会見／司会：石川洋企画担当部長／通訳：西村好美／出席：38人

下記のゲストの会見リポートは5～9ページに掲載しています

ながの けんじ ジャーナリスト

■ 3・15(水) 著者と語る『バブリー日本迷走の原点』／司会：軽部謙介委員／出席：70人

ふるかわ かつひさ 国連北朝鮮制裁委員会元専門家パネルメンバー

■ 3・16(木) シリーズ企画「北朝鮮の核とミサイル」⑤／司会：山本勇二委員／出席：62人

独・仏・オランダ3カ国駐日大使

■ 3・17(金) 記者会見／司会：杉田弘毅委員／通訳：大野理恵、森岡幹予／出席：82人

いいしま いさお 内閣官房参与

■ 3・30(木) 記者会見／司会：川村晃司委員／出席：130人

* 今号から「クラブゲスト」ページを変更します。「会見リポート」に登場するゲストは上記のようにゲスト名とデータのみを掲載します。(23ページに関連記事)

チャールズ・フラナガン アイルランド外務・貿易相

■ 3・1(水) 記者会見／司会：土生修一専務理事／通訳：池田薫／出席：21人

ウィリアム・レイシー・スウィング 国際移住機関(IOM)事務局長

■ 3・2(木) 記者会見／司会：ヴィーラント・ワーグナー委員／通訳：澄田美都子／出席：32人

いしはら しんたろう 元東京都知事

■ 3・3(金) 記者会見／司会：橋本五郎委員／出席：383人

うちへり まさお 福島県知事

■ 3・9(木) 記者会見／司会：坪井ゆづる委員／出席：65人

みやさか まなぶ ヤフー社長

■ 3・10(金) シリーズ企画「チェンジ・メーカーズに聞く」⑩／司会：安井孝之委員／出席：63人

会見余話

● 「石原効果」でアラスカ特選カレーム紹介

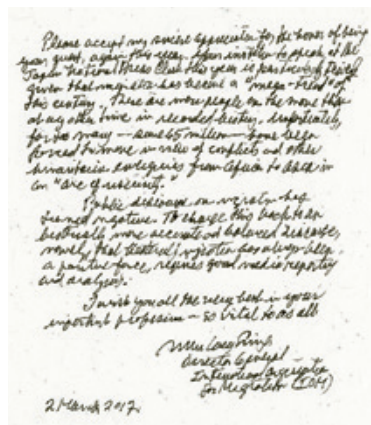
各局で生中継された石原慎太郎元都知事の会見には、民放のバラエティー番組も取材クルーを派遣した。和田アキ子が司会を務める「アッコにおまかせ！」(TBS日曜昼放送)では、会見現場と同じ階にあるレ

ストラン「アラスカ」の「特選黒毛和牛のスペシャルビーフカレーム」を番組で取り上げた。値段が5292円(税込み)と紹介されると出演者から驚きの声が上がった。アラスカからこのカレームをスタジオに出前して出演者たちが舌鼓をうつ場面も。



上：注目ゲストの「開口一番」を狙って連なるカメラ
下：橋本五郎企画委員の采配でテンポよく会見が進み、多数の記者が質問に立った

うに売れたのでは、とアラスカに聞いてみたが、「大きな影響はなかったですね」と肩透かしの回答が返ってきた。ちなみに、この特選カレームは月に平均40人の注文があるという。
当クラブの会員は同伴者も含め、2割引きの特別価格で召し上がれます。ぜひお試しください。



180wordsのアピール

● スウィングIOM事務局長(82)はゲストブックにゆつくりと、丁寧に一文一文を書き込む。数えてみると、180字もあつた。一言だけを添えるゲストが多い中、異例だ。まるで声明文のようにみえる。
「移民が21世紀のメガトレンドとしてネガティブにとらえられる中、議論の幅を広げるためには、メディアの的確でバランスのとれた報道・解説が欠かせない」と結んでいる。

チャールズ・フラナガン

アイルランド外務・貿易大臣

トランプ政権への不安もにじむ

英国の欧州連合（ＥＵ）離脱を最も深刻に受け止めている国と言ってもいいだろう。英国と陸地でつながる唯一の国であるアイルランドにとって、これまで自由だった英国との



人や物資の往来はどうなるのか、ようやく落ち着いた北アイルランドと平和にどう影響するのか。会場からの質問に「何とか今のオー

ブンな国境を維持したい。（今後の英国とＥＵとの交渉にあたって）他のＥＵ諸国には２国間の特殊な状況を理解してもらうよう努める」と繰り返した。

一方で、アイルランドのビジネス環境が米誌フォーブスに欧州トップと評価されたことを紹介するなど、英国に欧州の拠点を置いてきた日本の金融・保険企業にとって、自国が

絶好の代替地となることをアピールするしたたかさも見せた。

会見の冒頭で「報道の自由の重要性」を訴えたこと、広島への訪問を踏まえて「核廃絶を目指す立場を日本と共有する」立場を強調したのも印象に残った。通常なら日本への儀礼的発言として聞き流しただろう。だが米国に誕生したトランプ政権が自身に批判的な報道機関を敵視し、核戦力の大幅強化を打ち出して国際社会の懸念を呼んでいる中では、儀礼以上のメッセージが込められていたと受け止めたが、うがちすぎか。

トランプ政権についてどう思うかという会場のアイルランド紙記者からの質問に外相は、政権が打ち出した移民規制策に米国のアイルランド系社会が懸念を伝えたことを紹介した。また、歴代の米政権とアイルランドが良好な関係を築いてきたこと、ペンス副大統領もアイルランド系であることなどを指摘して「新政権とは建設的な対話が続けていきたい」と前向きな姿勢を見せながらも、「とにかく今はもう少し米政権の方針が落ち着くのを待つしかない」と不安もにじませた。米政権の行方を見通せない不安はどの国も同じなのだろう。

毎日新聞社論説委員 大木 俊治

ウィリアム・レイシー・スウィング

国際移住機関（ＩＯＭ）事務局長

パーフェクト・ストームを抜け出すための課題

世界の移民は約１０億人。うち２億４０００万人が国境を越えた移民で、インドネシアの人口より多く、世界６番目の国に相当する。人類が直面する喫緊の問題だが、状況は悪化し続け、『パーフェクト・ストーム』（複数の厄災が同時に起こる破滅的状况）の真つただ中にあると、スウィング事務局長は警告した。中東やアフリカで紛争や災害が相次ぎながら解決に向けた取り組みが遅れ、欧米では移民や難民をはじめ外国人に対する嫌悪感が強まり、政府も排他的な動きを抑えられない。そうした状況を懸念した発言である。



米国生まれの８２歳。ベテラン外交官である。ＩＯＭトップとして９年間、貧困や差別から逃れ新天地をめざす声なき人々のために世界を飛び回る精神的な活動の源泉は、ナイジェリアやコンゴ民主共和国など

アフリカ各国で大使を歴任、アフリカ最後の植民地と言われる西サハラで国連ＰＫＯの団長を務め、過酷な現実を自らの目で見つめ、肌で感じとった体験にあるのだろう。

では『パーフェクト・ストーム』からどうやって抜け出すのか。スウィング事務局長は、克服すべき４つの課題を挙げた。１つは「災害や紛争など人道危機と気候変動への対応」。２つ目は「人口動態の変化への対処」。人口が減少し労働力が不足する先進国に、若年層が増え続ける途上国から移住を進めること。３つ目に「多様性のある社会形成のための広報・啓蒙活動」。４つ目が「幅広い議論」だという。移民や難民に関する議論が負の側面から捉えられているとして、移住が歴史的にもプーラスの影響をもたらしてきた事実に基づいた議論を訴え、メディアの責任にも言及した。

昨年９月の国連サミットで難民・移民の保護を強化するための「ニューヨーク宣言」が採択された。しかし、欧米ではそれに逆行する動きが続いている。「欧州は難民を出す側だったことを忘れている」。移民・難民受け入れに慎重な首脳たちへの苦言である。

NHK解説委員 二村 伸

石原 慎太郎

元東京都知事

侍ならず、 小池氏への怨念深し

「果たし合いに出かける侍」の構えとはいかなるものか。そんな期待と関心で始まった会見だが、出てきたのは、問題の核心に対する吟味された説明ではなく、延々たる自己正当化と他者への責任転嫁であった。



さすがと思わせた点は、石原氏の境界引退後なお残るニュースバリューだ。かつてないほどテレビカメラが林立し、各局リポーターたちが先を争って質問した。その数は18件。

ただし、問題の解明は進まず。築地の移転先に土壌汚染の豊洲を選んだ理由は？「知事就任時の既定路線だったし、専門家は今の技術なら除去できる、と保証した」

東京ガスとの交渉経過は？ 側近の浜渦武生副知事(当時)に一任しており、「大まかの報告しか受けて

いなかった」「専門家に任せていた」。

瑕疵担保責任を免除した経過は？ここには質問が集まったが、石原氏から新事実の提供はなかった。

だが、契約の最高責任者として、もつと関係者から独自に聴取するなど事実解明に協力すべきだ、との再三の指摘に対しては、「では、調べてみよう」と。若干前向きな姿勢も見せた。会見の唯一の成果か。

一方で、自己主張は存分にされた。知事としての作為責任は認めるが、協力、賛成した都職員、議会もまた同罪だ。と同時に、責められるべきは、むしろ小池百合子知事の不作為責任だ。豊洲移転は科学的に問題はなく、風評で遅らせ、いたずらにコストを膨張させている小池氏に対してこそ、都民は訴訟を提起すべきだ、とまで語った。科学か風評か。この問題提起だけは受け止めたい。

会見冒頭では、田中角栄氏を持ち出し、脳梗塞で言葉を失い疑獄を抗弁せぬまま逝った氏の無念に触れ、自らも軽い脳梗塞で病んだが、何とか言語能力を回復、座して死は待たず、と強調した。恬淡とした老侍になり切れず。なお怨念を糧とする老政治家の悲哀が伝わってきた。

企画委員 毎日新聞社専門編集委員

倉重 篤郎

内堀 雅雄

福島県知事

東日本大震災6年 「光と影」「長い戦い」「挑戦」

内堀雅雄知事は東日本大震災6年のキーワードを3つ挙げた。

①光と影②長い戦い③挑戦。

①の光は、たとえば避難指示区域の縮小だ。事故直後は県の面積の12%あったが、4月からは約3%になる。農産物から基準を超える線量は検出されない。温泉も日本酒も「日本一」の評価がたくさんある。中学生の合唱も全国トップだ。

影は、今なお8万人の避難者がいること。「避難指示の解除はゴールでなく、スタートライン」という現実。昨年、避難指示が解除された地域に戻った住民は1割ほど。今も農産物の価格は低く、修学旅行生は約5割しか戻っていない。

実情を語りながら、知事は現状の



伝え方の難しさを口にした。

こんなに元氣になりましたよと、「光」を語れば「もう大丈夫だね」と言われて風化が進む。まだまだ厳しいですと、「影」に焦点を当てれば風評被害が積み重なる。そこで丁寧に「光と影」の両方を語ると、何がだかよく分からない、という反応になってしまう。

じゃあ、どうすればいいのか。知事の答えは「1回、来てみてください」だった。だから、県の観光パンフレットの表紙は「来て」の2文字だけが大きく書かれている。

会場からは、質問が相次いだ。避難指示が解除されても戻らない人々が「自主避難者」とされ、いざれ支援が打ち切られていいのか？中間貯蔵施設はどうなるのか？雇用創出策は大丈夫か？

聞きたかったのは、キーワードの「長い戦い」の具体的な中身、リアルな現場の話、県が果たすべき役割なのだという雰囲気だった。

知事は真摯に答えたが、どこまで理解が広がったのかは分からない。ようやく始まろうとしている原発被災地での「挑戦」の厳しさを改めて実感させられる会見だった。

企画委員 朝日新聞社論説委員

坪井 ゆづる

宮坂 学

ヤフー社長

働き方のアップデートを
発信したい

アップデート。それが、ヤフーのビジョンという。宮坂学社長は自社を「働き方のアップデートの発信地にしたい」と意気込む。疲れ切っている日本人の働き方をテクノロジーで解決したい、それが生産性の向上にもつながる、とみる。



会見で宮坂社長が繰り返したのは、「テクノロジーによる」働き方の変革だ。例えば、昨年10

月から社員の新幹線通勤を解禁した。満員電車で揺られるより、はるかにストレスは低い。実際に軽井沢から新幹線で通う執行役員もいるという。パソコンがあれば、座れさえすれば、通勤時間も貴重な労働時間に変えられる。

根底には、職場は、本社というリアルな場所ではなくクラウド上にある、という考え方がある。だから、

時間にも場所にも縛られない。この延長に、すでに報道された「どこでもオフィス」や、今後の挑戦として掲げる週休3日制がある。前者は、月に5日、会社でも自宅や喫茶店でも、好きな場所で働ける制度だ。子育てと両立しやすいと話題になった。

背景には、日本の労働者の生産性に対する危機感がある。人口の約半分が雇われ、その3割が疲れ果てている。労働時間の損失は大きい。宮坂社長は「これで景気が良くなるはずがない。労働者の心身状態の改善も、企業の役割ではないか」と話す。

現実には課題も多い。オフィスのクラウド化にはセキュリティのコストがかかる。評価は適正にできるのか。皆が時間も場所も自由なら、どう突発事態に対応するのか。いつでも・どこでも働けると逆に、休日や時間外労働が増えるのではないか。働く場所を自由にした一方、週に一度の部下との個人面談を課された管理職は、負担が増しているはずだ。

それでも宮坂社長の挑戦を歓迎したい。少なくとも働き手は、時間・場所を含めて、どう働くかを考え直さざるを得なくなる。労働者自身の意識改革にもつながるだろう。

朝日新聞出身 長友 佐波子

永野 健二

ジャーナリスト

現場から迫る経済バブル

書店に入る。バブル本ブームの関連書籍が並ぶ。

その中にドンと構えているのが永野健二さんの『バブル』だ。永野さんの本を「白バブル」、大手銀行元幹部の回顧録などを「黒バブル」と呼ぶのだそうだが、装丁の色彩に由来するだけなのだろうかと思ってしまう。



なぜ今バブル本が相次いで出版され、それなりに売れているのか。あの時代

への郷愁なのか。それとも新たな危機のにおいがするからなのか。

「安倍さん（晋三首相）の故ない明るさ、のつべりとした合理性に不安を感じているのではないか」と永野さん。本書の冒頭でも「安倍政権の発足とアベノミクスの動きは、バブルの序章である」と断言した。

「三菱重工CB事件」尾上縫と日本興業銀行」など人間くさい個別の

「現場」からバブルを語り、その上でこれら21のストーリーを構造の中に位置づけようと試みている。

「伝説の記者」と異名をとる永野さんは日本経済新聞社の証券部育ちだ。

市場という資本主義の心臓部でマクロ、ミクロ両面から資金の流れを取材することで鍛えられた日本経済に対する観察眼。

「生きた人間の物語として、バブルを語りたい」というジャーナリスト精神。

これらが融合することによって、本書の魅力が倍加したと言えは褒めすぎだろうか。

バブル発生の真因は何か。「やはりユーフォリア（熱狂）なのだろう」と永野さんは言う。「はまったら止まらない。理屈じゃない」

さまざまな顔ぶれが集まった会場からは「日経もバブルをあおったよね」という厳しい質問が飛んだ。永野さんは「（日経の）証券部には相当な警戒感があった」と断った上で、1987年のNTT（日本電信電話）株式上場フィーバー以降は「株価が伸びると（新聞の）部数も増えたからなあ」と正直なコメントも。充実の90分間だった。

時事通信社解説委員 軽部 謙介

古川 勝久

国連北朝鮮制裁委員会元専門家パネルメンバー

マレーシア、北朝鮮制裁の 抜け穴に

北朝鮮に対する制裁を国連加盟国が履行しているか。古川氏は安保理専門家パネルのメンバーを4年半務め、そのリポート作成に加わった。

まず金正男氏殺害事件が起きたマ



レーシアの事例を紹介した。北朝鮮の不法ビジネスのフロント企業がいくつもあり、工作活動の拠点になっていたとみられるが、警察の取り締まりは実に手ぬるいものだった。あるマレーシア人実業家は北朝鮮と親交があり労働者10人を勤務実態のないまま雇用していた。この中には事件関与を疑われる人物も含まれていた。今回の事件でマレーシアは被害者と見なされているが、実際には北朝鮮と長年のなれ合いが生んだ結果だと厳しく指摘した。

北朝鮮の武器輸出はますます巧妙

になっている。十数年前には貨物船に武器を積載し、その上から食糧やセメントが入った袋で覆うという稚拙なやり方だったが、今は部品に小分けし、しかも1つずつは問題がなさそうな民生品の状態で送る。搬入先で組み立てて武器や軍事物資に姿を変える。北朝鮮は型式が古い武器を生産し修理も請け負うから、中東やアフリカの紛争国からの注文は続くとの方を示した。

東南アジアなど各国を調査したが、政府は大体非協力的で情報を出し渋るし、税関職員には不法な輸出入品を見抜く知識が足りない。制裁の鍵を握るのは中国だが、中央政府が制裁の必要性を認めても、地方政府や税関はまだ意識が低いのが現実だ。北朝鮮の軍事物資には日本の民生用機材が使われ、海外で生産された物も多いと推測されるが、日本政府はもう少し監視と追跡に本腰を入れて取り組むべきだと訴えた。

北朝鮮の核、ミサイル問題は外交での解決が必要だとの見解を示したが、外交交渉をうまく進めるためにも、制裁の調査を十分に行い北朝鮮に不法の実態をはっきり突きつけることが重要だと述べた。

企画委員 東京新聞論説委員

山本 勇二

独・仏・オランダ

3カ国駐日大使

ポピュリズムに抗して

壇上の3人は一様に安堵しているように見えた。会見前日の3月16日（日本時間）、オランダ下院選挙の結果が判明。欧州連合（EU）離脱を掲げる極右の自由党が伸び悩み、与党が第1党を維持した影響だろう。

欧州統合の節目であるローマ条約の調印60周年を記念する会見に臨んだのは、欧州選挙イヤーの焦点の国オランダ、ドイツ、フランスの駐日大使。質問



左からアルト・ヤコビ蘭大使、ハンス・カール・フライヘア、フォン・ヴェアテルン独大使、ティエリー・ダナ仏大使

は必然的に欧米政治を揺さぶるポピュリズム（大衆迎合主義）に抗して、今後どのように欧州建設を進めるかに集中した。各大使が強調したのは、政府や主要政党が

ポピュリズムの源泉である大衆層の不安や不満と正面から向き合うことの重要性だ。

選挙を終えたばかりのオランダの大使は、極右が第2党となった現実を真剣に受け止める必要があると述べた。4～5月の大統領選で極右、国民戦線（FN）の躍進が予想されるフランスの大使は、EU官僚と市民の間のギャップが現在の政治状況を招いたと分析。「（人々の）懸念を拒絶してはならない。欧州人としてEUに関与するとはどういうことなのか、対話が必要だ」と述べた。

英国がEU離脱を決め、さらに各国でEUへの不満がくすぶる中、統合プロセスの立て直しは喫緊の課題だ。ドイツとフランスの大使は、全加盟国が一律の統合を進める原則を見直し、条件の整った国から統合を深化させる「統合速度の多様化」を訴えた。だが、このやり方はEU内に「二流国」を生み出すとして、東欧諸国から反発が出ている。

第2次大戦の反省から出発し、「歴史の実験」ともいわれる欧州統合には、債務危機や難民流入、テロなどの問題も横たわる。ローマ条約60年は、間違いなくEUの今後を占う岐路の年となりそうだ。

共同通信社編集委員 軍司 泰史

飯島 勲

内閣官房参与

公明に睨み利かせる 安倍政権の用心棒

「特命担当の内閣官房参与」とはどんな仕事なのか。肩書を聞いてもさっぱりわからない。あえて、こう翻訳したい。「安倍政権の用心棒」と。本人は怒るかもしれないが、こわもての風貌も含め、まるきり見当外れではあるまい。



「思い切つて都議選の投票に合わせ開票に合わせた衆院解散に打って出るのが一番望ましい」。会見で注目されたのはこの発言だ。含意があるはずだ。

ドラマに出てくる用心棒が「月夜の晩だけじゃないぞ」といえば、「親分に逆らうな」という意味だ。

すわ6月解散か、と騒ぐ向きもあったようだが、主眼は解散時期なのか。要するに公明党に「小池百合子東京都知事と仲良くするな」といったかったのだろう。安倍晋三首相がおおっぴらにいうと角が立つので、

代弁したわけだ。

築地市場には放射能を浴びた第五福竜丸のマグロが埋まっていた、建物にはアスベストが使われ、ネズミが5000匹もいる。こんな話もした。豊洲への移転の遅れが都民にもたらす弊害に心を痛める風を装いつつ、小池＝公明の連携にくさびを打ち込みたかったに違いない。

などなど話半分に聞いていたが、政権の思惑が見え隠れする言い回しも結構あった。

「忖度はあったのか」。森友学園問題をめぐり、こう質問されると、それまでの冗舌から一転して「頭が悪いから言葉の意味がよくわからない」としか答えなかった。

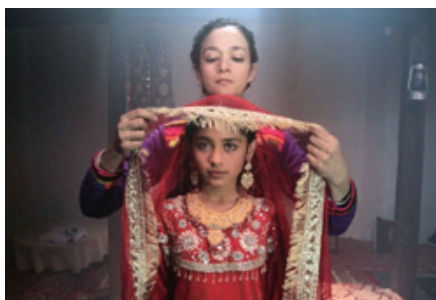
とぼけた？ そうではあるまい。小池＝公明問題に比べたら、森友学園問題など打撃とは思っていないというわけではない。

恒例の揮ごうは「広大無辺」と記した。意味するところは「いまの政治の現実のひとつのイメージを描きようがない。計り知れない怖い状況」ということだそうだが、むしろ冒頭の疑問への答えに聞こえた。政権守るためならばどこへでも出張るぞ、という……。

日本経済新聞社編集委員兼論説委員

大石 格

娘よ



カラコルム山脈に描かれる 「走る悲しみ」

2014年にノーベル平和賞を受賞したマララさん銃撃事件はまだ記憶に新しい。パキスタン出身の彼女が命をかけた「教育を受けたい」という訴えは、この国の過酷な状況を雄弁に語っていた。

そのパキスタンで撮られた最新の映画がこれだ。わが国で同国の映画が公開されるのは初めてだという。年齢。もしこの鉄の掟に逆らえば死が待っている。若く美しい母アッラキは、15歳の時同じような経験をしている。「自分と同じ思いを娘に味わせたくない」。苦渋の決断をした母は結婚式の当日、逃走という大胆な行動に出る。乾ききった砂塵の中を2人は必死に逃げる。掟から逃れ、自由をつかむために。

こう書くとサスペンス風だが、これは実話に基づいた映画である。メガホンを取ったのは女性監督のアフィア・ナサニエルさん。女性ゆえにもてあそばされる運命は、彼女だからこそ描ききれた。

それにしても、背景に広がるカラコルム山脈の美しさはどうだろう。切り立った崖壁、青い空に映える高い峰々。ひよんなことから2人を助ける若い男との道行きが映画に味を添えるが、その彼が運転するサイケデリックなトラックで山脈の中の一歩道をひた走る光景は、なぜか哀愁を奏でる。

マララさんや、最近、失踪後初めて姿を現した「アフガンの少女」。映画を通じてこの2人に共通したザイナブの目の輝きをぜひ見てほしい。

毎日新聞出身 渡辺 良行

©2014/2016 Dukhtar Productions, LLC
東京・神保町の岩波ホールほか全国で公開

森友学園 国有地売却問題

吉村 治彦(朝日新聞社)

それは、1本の電話から始まった
真相はいまだ闇の中

「8億円余りも値引きされ1億3400万円に。想定外的大幅な値下げに、その当時はちよつとびっくりいたしました」

3月23日に開かれた衆参両院の証人喚問で、渦中の森友学園の籠池泰典氏が証言した。委員会室で傍聴していた私には、証言が真実かどうかはともかく、緊迫した覚悟のようなものは伝わってきた。

私と同僚記者が森友学園への国有地売却問題の記事を初めて書いたのは2月9日付。きっかけは大阪府豊中市の取材先から数カ月前にかつてきた1本の電話だった。豊中市が以前に公園用地として取得を希望し断念した国有地があるが、ある学校法人に売却されたようだ、どうやら政治家と縁の深い法人で、しかも財務省近畿財務局が売却金額を非公表にしている、という。

近畿財務局のホームページで、過去3年間に売却された案件の一覧を調べると、確かに非公表は森友学園だけだった。1999年の旧大蔵省理財局長通達で、売却価格は公表が原則と定めている。しかし情報公開

請求をしても、価格や契約内容は黒塗りされて「不開示」だった。

「なぜ、そこまで伏せる必要があるのか」。財務局に取材すると、「学園側から非公表を強く要望された。学校運営に影響するので非公表にした」となんとも不可解な説明だった。

購入価格を公開されている他の学校法人や社会福祉法人に取材すると、「財務局からは国有財産なので公表しますねと言われた」「国有地は売却価格の公表が当然でしょう」と答えた。

籠池夫妻へアタック、取材が実現

情報公開されないならば、自力で調べるしかない。土地の登記簿をとったり関係者や複数の公的機関に話を聞いたりして、売却価格は登記簿に記された「買い戻し特約」と同じ1億3400万円ではば間違いないと感触を得た。近隣の同規模の国有地が豊中市に約14億円で売却されていたことや、別の学校法人が同地の購入を希望して7億円前後の金額を提示したのに、財務局と折り合いがつかなかったことも分かった。不自

然すぎる。

森友学園は当初、取材を申し込んでも「朝日新聞は嫌い」と応じなかった。しかし財務局が事情を明かさな以上、学園の籠池氏に聞かなければ、売買の経緯が分からない。2月初め、同僚記者と大阪市内で学園が運営する幼稚園を訪問すると、園長室に通され、籠池氏と副園長の妻が取材に応じた。

第一印象は「よくいる大阪のおっちゃん」。記者の質問にぼんぼんと答え、言葉を荒らげることもあったが、登記簿などをもとに詰めると、売却価格が1億3400万円だと認めた。財務局が売却価格を非公表としたことについて、籠池氏は「非公表を」強く求めている」と説明した。

財務局は2月9日の報道後、籠池氏の了承を得たとして、売却価格を一転して公表。土地の鑑定価格約9億円からごみの撤去費として約8億円を差し引いたことを明らかにした。

報道から数日後、再び籠池氏に取材したが、前回と打って変わって厳しい表情だった。安倍晋三首相の妻・昭恵氏が名誉校長に就任し、「安倍晋三記念小学校」の名前で寄付を募った時期があると認めつつ、その時は昭恵夫人を擁護しながら「よこしまなことは一切ない」と語った。ただ、ごみは一部しか撤去していない

と認めた。

国有地の売却問題で初報を出す前から、大阪社会部の教育担当の記者も、学園の幼稚園での在日外国人への差別疑惑などについて取材していた。初報を出した後は、東京社会部や政治部などとも連携して取材班を立ち上げ、記事を出稿していった。

初報から2カ月、疑問尽きず

定期借地から分割払いの売買に切り替わった「ウルトラC」とも言われる異例の土地取引の経緯や、寄付金に大きく頼る学園の財務状況、大阪府私学審議会が条件付きで小学校の設置認可を適当とした背景など、調べれば調べるほど新たな疑問点が浮かんだ。

2月17日に安倍首相が「私や妻が関係していたということになると、首相も国会議員も辞める」と衆院予算委員会で述べ、野党が追及を始める、他の新聞やテレビ各社の報道も次第に熱を帯びていった。政治家が関与していたのかに加え、財務省による面会記録の廃棄、学園側の補助金不正疑惑、昭恵夫人に対する官僚の付度はあったのかなど、問題が多岐に広がり、安倍政権の足元を揺るがす事態に発展した。いまだに真相は見えず、取材が続いている。

よしむら・はるひこ▼2000年入社
広島 佐賀の両総局などを経て 14年から大阪社会部

経産省施錠問題

吉田 通夫（東京新聞）

閉ざされた扉に阻まれた取材 知る権利のため撤回要求続ける

森友学園の籠池泰典氏は3月23日、国会の証人喚問で、安倍昭恵総理夫人に国有地取得を相談したところ、夫人付きだった政府職員、谷査恵子氏からファクスで返信をもらったと述べた。谷氏は所属元の経済産業省に戻っており、各社は所属部署の前に張り込んだ。が、施錠された扉に阻まれ、在室は確認できない。今までは施錠はなく、扉をそつと開けることもできたのに――。

さかのぼること1カ月前、2月27日に施錠が始まった。経産省は「情報管理を徹底する」と、全執務室を施錠すると発表した。同時に新聞やテレビ、通信社23社が加盟する経済産業記者会には、若月一泰広報室長名で「取材対応は従来と変わらない」との文書が貼り出された。

しかし、これまで気軽に話を聞いていた課長補佐に電話したところ、「課長じゃないと…」と断られた。他社の記者も「取材対応が鈍くなった」と嘆いた。

実は文書貼り出しの数日前に、「裏メニュー」（経産省職員）として、職員に報道対応を厳しくするよう広報室長名で通達があったからだ。

内容は▽取材は執務室ではなく応接スペースで受ける▽取材には複数で対応し、議事録をとって広報室に報告する▽夜打ち朝駆けはできるだけ受けず、受けたら広報に報告する――など。

NTT広報部報道担当課長だった世耕弘成経済産業相の発案という。世耕氏は就任当初から庁舎管理と報道対応の厳格化に意欲的だった。週刊誌の「安倍晋三首相とトランプ米大統領の首脳会談に向けた内部資料を、経産省の幹部が漏らした」との報道もルールの厳格化を後押しした。

記者会が猛反発 厳格化は事実上なかったことに

取材への規制は、読者や視聴者、ひいては国民の知る権利に及ぶと思われる記者にとって、受け入れられ

ない。経済産業記者会は2月27日から何度もクラブ総会を開いて対応を話し合い、経産省に撤回を要求した。

翌28日には若月広報室長に記者会見を求めて説明させ、各社は「自由闊達に売りの経産省が扉を閉ざしてどうする」「職員が心理的にも萎縮している」などと追及した。経産省は施錠を撤回せず、取材対応の厳格化も「内部のことなので」と、通達した事実自体を認めなかった。

しかし、しつこく抗議を続けたからか、28日付で菅原郁郎事務次官が「報道取材への対応について」との内部通達を出し、取材には迅速に責任を持って対応するように徹底した。

事情を知る職員は「クラブの猛反発を受けて、取材対応の厳格化はなかったことにしようとしている」と言う。別の幹部職員も「経産省はダ



省内の廊下には全室施錠の貼り紙が（筆者撮影）

メだと思つたらすぐ元に戻す。われわれの仕事は、皆さんを含め外部との意見交換なしには成り立たない」と解説した。職員たちの良識を信じたい。

いまだ続く施錠 密室化でなく透明化を

しかし施錠については、一向に撤回する兆しがない。

くしくも国会では、防衛省が受けた情報開示請求に対し、南スーダンに派遣されている自衛隊の日報を隠蔽して「破棄した」と虚偽回答をしたことが問題になっている。財務省も、大阪府の国有地を森友学園に安価で売却した記録を「破棄した」と言い張るなどし、大きな不信任感を巻き起こしている。

いま政府に求められていることは情報管理の徹底ではなく、国民に情報を隠さないための対応。密室化ではなく透明化だ。ここで経産省の密室化を認めれば、情報隠しに走る政府全体に広まってしまう恐れがある。経済産業記者会は、引き続き、施錠と取材対応の厳格化を撤回するよう求めている。

よしだ・みちお▼1999年入社 経済部東京証券取引所 日銀 財務省などを経て 2014年から経済産業省担当

金正男氏殺害事件

磐村 和哉（共同通信社）

「おっとり感」が招いた悲劇

北朝鮮の故金正日総書記の長男、金正男氏がマレーシア・クアラルンプール国際空港で殺害された事件は、2つの側面で衝撃を受けた。

まず、VXとみられる化学兵器によるテロが、衆人環視の中で実行された点だ。防犯カメラの映像によると、ベトナムとインドネシアの2人の女性に挟み撃ちにされるように顔面に毒物を塗られた金正男氏は、空港の警備員らに異常を訴えたが、警備員らの反応は鈍い。

少なくとも金正男氏が空港内のクリニックで倒れ込んだ時点で、パスポートコントロール部門に何らかのアラート措置を講じていれば、殺害につながる証拠を持った関係者を拘束できた可能性があったのではないだろうか。

防犯カメラが捉えた殺害場面は、アメリカンフットボールに例えれば、金正男氏をターゲットにしたフォーメーションを、それぞれのポジションで役割を徹底してこなしてい

るようにみえる。おっとり感漂う空港警備とは対照的だ。この「おっとり感」は、実は金正男氏にも通じる部分があったのかもしれない。

特別扱い求めず、雑談にも応じる

2点目の衝撃は、数年前から身の危険を認識していただろう金正男氏の「おっとり感」が、やはり狙われてしまったという点だ。

平壤と北京を往来する北朝鮮の高麗航空は、中型機が投入されることが多く、ビジネスクラスは10席前後しかない場合もある。北朝鮮の要人は、ビジネスクラスの最前列が暗黙の指定席だ。記事に何度も登場させた高官と隣り合わせになることもある。相手も面食らうだろうが、こちら移動時間こそ気が抜けない。

彼らが最前列に案内されるのは警護上、最初に降ろすためで、これはどの国のエアラインも共通だろう。キャビンアテンダントも緊張した面持ちで対応している。

しかし、何度か乗り合わせた金正男氏の場合は、扱いが全く違った。

ビジネスクラスではあるが、エコノミー席に近い後部に座ることもあった。どのような人物かはキャビンアテンダントも知ってはいるはずだが、特別扱いするそぶりは見せず、金正男氏も特別扱いを求めない。金正男氏は北朝鮮の高官はおろか、国民も身に着けることはないジーンズをはくことが大半だったので、一般乗客の目には、中国人が在朝鮮族の観光客のように映っていたのかもしれない。

到着すると、VIP通路ではなく一般乗客と一緒にぞろぞろと降りていく。空港のパスポートコントロールまで付かず離れず歩きながら、「到着ロビーでは記者団が大勢待機しているかもしれないよ」などと雑談交じりの話を交わすこともできた。



ソウル駅で流された、金正男氏殺害を報じるニュース(2月15日/共同通信社提供)

最高指導者の長男、といった威圧的な話しぶりはしない。挨拶する際には頭を下げるような仕草も見せたので驚いた。

金正男氏が漂わせていた「おっとり感」は、日本的な感覚では「育ちの良さ」なのだろうか。偽名で何度か日本に入国していた2000年前後は、東京都心のホテル内の寿司屋でカウンターに一人で座り、日本語でネタを注文していたとされる。

東南アジアから日本入りする前には、滞在先のホテルのビジネスセンターからFAXで都内のホテルに予約を入れることもあった。

こうした振る舞いに各国の情報機関は戸惑っただろう。日本メディアを中心に露出の多かった金正男氏が漂わせていた「おっとり感」は、平壤に流れる時間感覚とは明らかに異なるものだった。

事件で対立していた北朝鮮とマレーシアだが、3月末に「政治決着」する形で、事件に関わったとされる北朝鮮国籍の男性らは遺体と共に平壤に戻った。実行犯の女性被告2人は殺意を否認しており、「動機なき殺人事件」として迷宮入りしそうだ。

いわむら・かずや▼1984年入社 社会部 外信部 ソウル特派員 平壤支局長などを経て 2012年から編集委員 兼論説委員

朴槿恵大統領罷免

磯部 誠二(フジテレビ)

混乱収まらぬ韓国 驚くべきメディアと市民のパワー

それは突然やってきた。

2016年10月25日。ある昼食会で「昨日のJTBC演説文流出報道はヤバイ」と話題になり、よくわからぬまま職場に戻った。最近新聞に出てい、あのオバサンの話かと思っていたところ、突如、夕方から朴槿恵大統領が記者会見。頭を下げて謝罪しているではないか！ 後にこの会見が、朴前大統領の最大の失敗だったとも指摘される。大統領への本格攻撃が解禁されたに等しかったからだ。

あれから間もなく半年。レームダックと呼ばれ始めていたが、よもや、韓国憲政史上初の「大統領罷免」が現実化するとは、夢にも思わなかった。

切っても切れぬ「国民情緒法」

事件は、海外で身を潜めていた「影の実力者」崔順実被告の帰国、出頭、そして即日拘束とスピーディーな展開を見せる。崔被告が検察に出頭した10月31日。韓国メディアは

いつもホットだが、これほどまでに熱い取材現場は見たことがない。一般人も入り乱れての大混乱。

昨年5月の加湿器殺菌剤事件では企業幹部が被害者家族から殴られたり、泡を吹きかけられたりする場面があったが、こうした現場にはプラカードを持ってメディアに主張しようとする人たちが必ずいる。日本でも抗議活動やデモがあるが、ここまで直情的な現場は見たことがない。

「朴大統領弾劾 賛成76・9%、反対20・3%」(3月8日)

「朴前大統領 拘束捜査すべき69・4%、非拘束捜査17・8%」(3月10日)

朴前大統領への厳しい見方を示す半面、裁判所や検察が決定を下す前に、有罪前提ともとられかねない世論調査質問項目が成立するなんて、日本では想像しにくい。

14年の大韓航空「ナッツリターン」事件では、司法も国民感情を無視できないと、「国民情緒法」とい

う言葉をよく耳にした。駆け出し記者の頃、司法担当をかじった身からすると、そんなことはあり得ないと思うのだが、ナッツリターン、産経新聞の加藤元支局長の名誉棄損裁判(無罪確定)しかり、その時々国民感情、政府の意向を忖度しながら、判決や刑事処分を決めているのではないかと思う場面がよくある。

だから、国民が毎週末にソウル中心部に集まり、国会や憲法裁判所の周りで「弾劾せよ」とデモ隊が声を張り上げ、朴大統領の自宅前では、支持者が「愛しています」と絶叫する。そして、さまざまなメディアが「民心は無視できない」と報じる。

憎しみの連鎖の先にあるものは

3月10日の弾劾決定直前、憲法裁判所の近くで入った飲食店で「お前たちの報道は間違いだ。だからこんなことになるんだ」と、私に韓国語と英語を交えて話しかけてきた大統領支持派の男性がいた。憎悪に満ちたその目は真剣そのもの。実際に弾劾決定後には、私たち取材団は暴力的攻撃に遭った。自分たちの意見と異にする人たちは全て敵なのだ。

別の記者は、弾劾訴追賛成派の集会に紛れ込んでしまった大統領支持派の男性が卒倒したものの、周囲の

人が助けることなく、唾を吐きかける姿を目撃した。

地縁血縁を優先するこの国では、「力」が一部に集中するため、疎外された人たちの反感はすさまじいという。この事件では、国論だけでなく、国民が心から2つに割れてしまったと指摘される。メディアや、個別に話した人たちは「これで対立を終わりに」「決定に従い口を挟むべきではない」と正論を訴えるが、歩み寄りはまだ見られない。

この原稿が掲載される頃には全てが終わっているのか、予期せぬ新展開が待っているのか予想がつかないが、この国が新たに生まれ変われるのか、じっくりと見届けていきたい。

いそべ・せいじ▼1991年入社 2014年7月からソウル支局長



反朴槿恵集会でリポートする筆者(フジテレビ提供)

被災地通信 熊本地震から1年

住民生活の再生はこれからが本番

奥村 国彦 (熊本日日新聞社)

倒壊した家屋を相手に重機がうなり、がれきを積んだトラックがせわしなく往来する。熊本地震で2度の震度7に見舞われた熊本県益城町。中心部の幹線道路沿いでは今、被災家屋を解体撤去した更地が日に日に広がっている。ただ、県のまとめでは、町内で解体が想定される5757棟に対し、2月末までに解体が済んだのは58・5%。被災者の生活再建に向けた環境が整うには、まだ時間がかかりそうだ。

2016年4月の熊本地震発生から1年を迎える。14日午後9時26分に起きた熊本地方を震源とするマグニチュード(M)6・5の「前震」と、

16日午前1時25分のM7・3の「本震」。わずか28時間のうちに震度7の揺れが連続して起こる前代未聞の災害だった。

「同じ場所に家を建てていいのか」拭い去れない住民の不安

9割以上の家屋が被災した益城町は昨年8～9月、全約1万3千世帯を対象にアンケートを実施。回答した約5600世帯のうち、今後町に住み続けることを希望する世帯が9割を占める一方、「余震や二次災害が不安」と答えた世帯が5割を超えた。

「また、同じ場所に家を建てていいものだろうか」。こうした不安が



被災家屋が解体された後に更地が広がる熊本県益城町中心部の幹線道路沿い(3月28日/筆者撮影)

更地を増やす要因にもなっている。国土交通省は昨年12月、地震後に実施した地盤調査の中間報告を公表。現行の耐震基準を満たす1～2階の低層建築物については、活断層による地盤のズレで倒壊する可能性は低いとする考えを示している。しかし、住民の不安を拭い去るまでには至っていないようだ。

さらに、県が示した幹線道路の拡幅計画が生活再建の見通しを不透明にする。計画によると、町中心部を通る約3・5kmを現在の道幅10mの2車線から27mの4車線に広げる。拡幅には新たに約6分の土地を取得する必要がある、沿線の約300戸が用地買収の対象になるという。

「4車線化は復興への起爆剤」と期待する声がある一方、所有地の大半が道路用地に含まれ現地再建を断念せざるを得ない沿線住民もいる。総額153億円をかける事業の完了目標は9年後の2026年。町の復興が4車線化の進み具合に左右される事態は避けなければならない。

仮住まい4万1千人 国の支援強化が不可欠

県内では昨年11月までに応急仮設住宅の建設が終わった。整備戸数は16市町村で計4303戸を数える。

民間賃貸住宅を無償提供する「みなし仮設」への入居申請は、25市町村で1万5千戸を超えた。県が昨年12月に公表したデータによると、壊れた自宅を離れて仮設住宅や公営住宅で暮らす被災者は約4万1千人に上る。県民の43人に1人が仮住まいを続けている計算だ。

地盤の亀裂や液状化、擁壁崩壊など宅地被害の多さも熊本地震の特徴の1つといわれる。県内の被災自治体では、被災宅地の復旧工事に住民負担を求めず、全額公費で賄う動きが相次いでいる。ただ、被災自治体の予算規模は膨らむ一方だ。被災者が願う復興への取り組みを着実に進めていくためには、国の支援強化が欠かせない。

「毎月14日が近づく」と怖くて仕方がない」という声を聞くと、とてもひとごととは思えない。震度7の揺れを2度とも経験した私も、「あの時」を思い出すたびに体がこわばるからだ。再建を目指すスピードは一人一人が異なる。一歩ずつ前に踏み出す被災者に取材の歩調を合わせていきたい。住民生活の再生は、これからが本番だ。

おくむら・くにひこ▼1990年入社
2016年9月から社会部で熊本地震に伴う臨時総局を担当

私が会った
あの人

「異論を言う勇氣を持て」

―後藤田正晴さんの歴史観と憲法観

栗原 猛（共同通信出身）

田中角栄内閣が1972年7月、二階堂進官房長官、山下元利官房副長官、事務副長官は、警察庁長官を辞めたばかりの後藤田正晴氏という顔ぶれで発足。両副長官は官邸詰め駆け出しの記者が交代で担当した。

日本記者クラブの常連、荒屋昌夫（東京中日）、長崎和夫（毎日）、瀬下英雄（NHK）の各氏、異色では中央区長になった矢田美英氏（共同）らが担当だった。

後藤田氏の目白駅近くのマンションは、遅くなると1階玄関のカギがかかり、後藤田氏は12階からカギを持って下り、記者を送り出した。ある晩、午前零時をすぎ、「明日、秘書官に返してくれ」とカギを渡された記者が、コピーして皆に配った。翌日の夜、後藤田氏がかギを持って降りようとすると、気を遣った1人が「遅いからここ

で結構です。非常階段もあります」と言ったので、「おかしいな」と複製事件はすぐ発覚した。特におとめはなかった。夜回りは毎晩のように続いたが、後藤田番のデスク評は「特ダネはないがミスリードもない」だった。それから幾星霜――。

国会議員を辞めた後藤田氏を麹町の事務所によく訪ねた。歴史観や憲法観、大変な読書家で読後感などの話もあった。憲法観は大きく3点になるのではない。1は政府や軍部のトップリーダーに対する不信感である。鬼畜米英と叫んでいた政府や軍部の高官たちは敗戦になると、責任逃れに走り、東京裁判では米国寄りの証言をした。この姿を見て「日本人はトップほど責任感がない」と痛感したという。

2は歴史観だ。第1次世界大戦が終わると好景気になったが、すぐ反動で銀行、商社などが倒産、農家で

は娘さんを売りに出すという窮状になった。義憤を感じた若手将校や右翼青年が浜口雄幸首相、井上準之助蔵相、団琢磨・三井合名理事長、犬養毅首相を暗殺。テロが起きるたびに国民は喝采するようだったという。だから「経済が悪いと政治家のせいだ」という風潮になる。景気にはよほど注意が大事だ」とよく言った。

3は後藤田氏の憲法論の真骨頂で、アジア情勢をにらんでいたことだ。「中国や韓国と緊張関係にある時に憲法論議をしたら、両国を敵視する雰囲気の中で進められ、取り返しがつかなくなる」と繰り返した。

最後にもう1つ。それは、日本人の特性についてである。「日本人は大事なことほどその場の空気を決

め、決まると一瀉千里に走り出す。職場でもどこでも『ちよっと待って、異論がある』という勇氣が大事だね」

衆参両院で「改憲勢力」が3分の2議席を超えた。後藤田氏はこの事態を予測していた節がある。憲法を議論するには敗戦と戦後改革、戦後の歩みに対する認識から始めないといけない。天皇が象徴する日本とは何か。個人の尊厳、国民主権、多様性と寛容、平和主義をどう定着させるかの議論は欠かせないだろう。

鎌倉霊園（神奈川県鎌倉市）の墓碑は長男、尚吾氏が書いた「自身の戦争体験から来る平和への強い思いが一貫した政治信念であった」と刻む。存命ならどういう言葉が聞かれるか。「まず格差の解消だな。日米関係も大事だが、未曾有の少子高齢化社会に入った。福祉、社会保障問題など、国民生活の足元固めをしっかり頼む」と言うのではないか。

（くりはら・たけし 元編集委員）

次号は瀬下英雄さん（NHK出身）にバトンが渡ります。



引退を発表した直後の後藤田正晴氏。当クラブで「政治家としての遺言」と題して会見（1996年10月4日）。ウェブサイトに詳録がある

撃沈されたことを「やむを得ない」と一言 ―戦艦武蔵を造った男との1時間―

大澤 賢



おおさわ・さとし
1969年日刊工業新聞社入社 86
年中日新聞東京本社(東京新聞)
へ経済記者として関係省庁と
日銀のほか鉄鋼 建設 金融
商社などを担当 浦和(現さい
たま)支局長 総務局自動車部
長 同総務部長 論説委員を経て
2012年退社 中日新聞社友
著書に『三菱重工業』『黄色い口
ボット』『甦る被災鉄道』など

フィリピン中部シブヤン海。無人潜水機のライトが深海1000メートルの闇を切り裂いていく。赤青色の深海魚に続き、海底にさまざまな残骸が浮かび上がる。「これは武蔵の主砲46センチ砲の動力装置の一部」

「偵察機を発進させるカタバルトが見える」などとナレーションが続く。

今年1月21日、NHK・BS1で放送されたドキュメンタリー番組「戦艦武蔵の最期」はおびただしい残骸と、建造した造船所や武蔵を沈めた米軍パイロットへのインタビューなどを盛り込んだ大作だった。コンピュータグラフィックス(CG)を駆使して主砲の威力を描き出し、船体(船殻)は厚さ40センチの鋼板で覆っていたなど、不沈艦の特徴をしつかりと紹介していた。

この番組を見ながら、若いころに

インタビュした三菱重工業相談役の古賀繁一^{こがしげいち}さんを思い出した。古賀さんは、武蔵の建造副主任を務めた歴史の生き証人だった。

◆世界最大の巨砲をもつ戦艦

世界最大の「大和型戦艦」2号艦・武蔵が長崎県の三菱重工業長崎造船所で起工式を挙げたのは1938(昭和13)年3月である。完成は42年8月で、すでに太平洋戦争たけなわだった。ちなみに1号艦の大和は37年11月、広島県の呉海軍工廠で起工し、開戦直後の41年12月に完成した。

武蔵を語るうえで必読書なのが、吉村昭著『戦艦武蔵』だろう。武蔵の巨大さを次のように記述している。

「その年(注…37年)の6月1日、待ちかねていた新戦艦の基本設計図と主要項目が艦政本部から首席監督

官をへて造船所側に手渡された。

艦の長さ263メートル、最大幅

38・9メートル

排水量(公試状態)68,200

トン(満載状態)71,100トン

主砲46センチメートル(18イン

チ)3連装3基計9門……」

そして古賀さんについては「…第2号艦建造主任室が創設された。そしてその主任として鉄工場長の渡辺賢介、副主任格として技師の古賀繁一が任命され……と紹介している。

同書では建造を秘密にするため造船所の目隠し用に全国から大量の棕櫚^{しんろう}が集められたことや、市民と外国人の目から造船所を隔離する方策、そして進水に向かっの緊迫した場面が克明に描かれ、主要な場面で古賀さんがたびたび登場する。

◆「沈没は2カ月後に知った」

そんな古賀さんとのインタビューが実現したのは79年夏、ある出版社から『三菱重工業』の執筆を頼まれたことがきっかけだった。小生は日刊工業新聞社の記者だった。丸の内の本社ビル(当時)でお目にかかった古賀さんは、小柄ながら大人の存在感があった。

当初の目的だった第一次石油ショック後の日本の造船業について聞いた後、締めくくりに「この本の目的とは違う話ですみませんが」と断りを入れて、武蔵について質問した。

「最後に、古賀さんといえば戦艦『武蔵』。建造に携わった一人として印象深い思い出は？」

古賀 「武蔵」は当時の大艦巨砲主義の考え方に基づいて設計し、建

造した戦艦だ。主力艦同士が相まみえて砲火を開き、雌雄を決する時に必要だったわけだ。(中略)

まあ苦労したというか、建造自体が機密だったことと、進水の問題が厄介だった。そのころの各国の戦艦と比較して船幅が極めて大きかった。また長崎港の幅が狭いため、勢いよく進水すると対岸にぶつかる恐れがあった。しかし、三菱はこの二つは解決できるということで引き受けたわけだ。

「武蔵」が沈んだことは、その二カ月ぐらいい後で知ったね。飛行機にやられればダメだということは、開戦当初日本が自ら実践したことだ。だから沈んだと聞いた時も、やむを得ないなと思ったよ。

若い記者のために解説すると、「開戦当初日本が自ら実践したこと」とは、41年12月8日(現地時間7日)のハワイ真珠湾攻撃と、同10日のマレー沖海戦を指す。

真珠湾攻撃では日本の海軍機が停泊中の戦艦アリゾナ(31,400トン)など戦艦4隻を含む多数の軍艦を撃沈・大破した。またマレー沖海戦は航行中のイギリス東洋艦隊の新鋭戦艦プリンス・オブ・ウェールズ(35,000トン)と重巡洋艦レパルスを航空機攻撃で瞬く間に撃沈した。

◆大和に匹敵する武蔵の悲劇

武蔵は1944年10月24日、レイテ沖決戦に向かう途中で米航空機の攻撃に見舞われた。魚雷20本と直撃弾17発を受けて沈没、その直後に大爆発を起こして艦体は四散した。戦闘状況は大岡昇平著『レイテ戦記』にも詳しく紹介されている。

一方、大和は45年4月7日、沖縄に侵攻した米軍を撃滅する特攻作戦に出撃。やはり米航空機の攻撃を受けて鹿児島県枕崎沖約200キロの東シナ海に沈んだ。約3000人が亡くなった。吉田満著『戦艦大和の最期』は自身が体験した戦闘記録だが、戦争の本質を冷静に指摘した優れた文学作品でもある。

武蔵の悲劇性は、生き残った乗組員のその後の処遇で増幅される。全乗組員約2400人の半数以上の1376人が救助されたが、沈没情報は厳しく伏せられ、一部の乗組員は終戦まで離島に隔離された。また大半は陸兵としてフィリピン決戦に参加を余儀なくされ、多くがフィリピンの土となったのである。

古賀さんとのインタビュで、おやつと思ったのは最後の「やむを得ない」の一言だった。武蔵は起工式から完成まで4年5カ月もかかっ

た。当時30代半ばの古賀さんが寝食を忘れ、たくさんの技師・工員たちが心血を注いで完成させた武蔵が、わずか2年2カ月後に撃沈されたことを、そんなに簡単な言葉で締めくくれるのか、と疑問が浮かんだ。

本音は「悲しかった」とか「悔しい思いが抜けきらなかった」ではなかったか。ただインタビュの時は緊張していて次の質問が続かず、1時間ほどの取材は、あつという間に終わってしまった。

◆本音を聞き損ねた悔しさ

あの時、古賀さんに真意を聞き損ねたことをずっと引きずっている。今ならすぐに「それは緒戦の勝利だけでなく、翌年6月のミッドウェー海戦敗北を知っていたからですか」とか、「撃沈は早いぶん昔の話ということなのですか」と聞いたと思う。

古賀さんは1903(明治36)年生まれ、25年に東京大学工学部船舶工学科を卒業して、すぐ同社(当時は三菱造船)に入社した優秀な造船技師だったから、急変した戦闘形態を知っていたはずだ。建造中からむなしさを抱えていたのではなかっただろうか。

一方、取材は古賀さんが76歳の時で、武蔵が撃沈されたのは41歳の時

だから実に35年前の出来事である。それほど年月がたつていれば撃沈の悲劇は少し薄らいだ記憶になっていてもおかしくはない。淡々と「やむを得ない」と語ったのは時間(年齢)が語らせたのかもしれない。

古賀さんは戦後、三菱重工業の経営を担うことになった。71年12月に社長に就任したが、それは牧田與一郎社長が急逝したためで、古賀さんは牧田さんの残りの任期1年半を務めた後、73年5月、あっさりと会長になった。見事な引き際だった。

日本の造船業は1950年代半ばから度々世界一の座を占めた。古賀さんは造船業界のリーダーとして活躍し、国は藍綬褒章や勲一等瑞宝章、賜杯銀杯四号を贈り長年の功績を称えた。77年相談役へ退いた後、92年12月、89歳でこの世を去った。

現在、日本の造船業は中国や韓国などとの価格競争に勝てず、各社は合併や提携を通じて必死に生き残り策を模索中だ。三菱重工業も大型客船事業からの撤退や分社化などで事業全体をスリム化する計画を進めている。かつて築き上げた造船王国の一翼を担った古賀さんが存命ならば、現在の造船業をどう見るだろうか。やはり静かに「やむを得ない」と語るのだろうか。

セキュリティ研修の研修 IT時代と記者の職業倫理 情報は管理するもの

2・28(火)講師：松波功・中日新聞電子編集部／出席：28人

「取材先との信頼関係を構築するためには取材源を秘匿しなければならぬ」「そのことが国民の知る権利に配慮することにつながる」——これは揺るぎない取材の根幹であり、報道各社も新人研修でも繰り返し教えていると思う。

しかし、今回のIT講座を受けて「これまでの記者教育の骨格を見直さなければならぬ」と強く感じた。

Windows 95が日本で発売されて今年で22年、インターネット元年に生まれた世代が社会に入ってきた。

物心ついた頃から、インターネットの環境があり、電話はスマホ、情報のやり取りはLINEという世代だ。情報についても「パソコンに文字を打ち込んで検索すれば、簡単に入ってくるもの」「水や空気のようなもの」という意識の人が多いのかもしれない。新聞を読まず、テレビも見ず、ニュース・情報はネットで入手するという人が圧倒的に増えている。

このようなネットとともに育ってきた新人に、情報の意味合いやその扱い・管理、取材源の秘匿などについてどう教育すればいいのか。

IT講座では▽メール、LINEなどほとんどの情報は、システムの性質上見られたり盗まれたりするリスクがあること▽大切な情報には必ず厳重な鍵をかけ、暗号化してやり取りしなければならぬことを教わった(話はそんなに単純ではないが)。

記者の研修では「その話、誰から聞いた」と聞かれても、絶対にネタ元を話してはいけない」と教えている。これ自体変わることのない倫理だが、これからの時代は「取材先を守るために、情報には必ずガードをかけなければならない」ということを併せて叩き込まなければいけないと思う。

記者の仕事は、情報を取ることである。しかし「取ればいい」というだけの時代は終わった。情報を管理するITの知識なくして取材活動はもはや考えられない。全ての報道各社が「足元は大丈夫なのか」を見つめ直す必要がある。かく言う私は昭和54年に入局したアナログ人間で、暗号化の勉強を始めたところだ。

NHK放送研修センター研修事業部

渡部 孝道

■第5期記者ゼミのお知らせ

「IT」「調査報道」2つのテーマで

2017年度の記者ゼミは、2つのテーマを用意しています。16年度に始まった「次世代ジャーナリストの必須IT講座」の内容を見直し、再編成して継続開催するとともに、新たに「調査報道講座」を立ちあげます。

新規開催の調査報道の講座タイトルは「誰でも調査報道」としました。調査報道は一部の優れた記者の仕事とみられがちですが、そのマインドとノウハウは会見・発表取材という多くの日常取材でも求められています。狙いには、報道の一般的レベルの向上を含んでいます。より高度な報道を目指すと同時に報道の「質」の平均点を高めるため、記者なら誰でも身に付けるべきノウハウを一緒に学んでいきます。

IT講座は、新聞、テレビなど旧マス・メディアが、急速に普及・進歩するインターネットという新メディアへの対応に苦慮する中、ともかくも第一線の記者たちが取材や編集の現場でIT(情報技術)に慣れ、使いこなせるようにすべきだという認識から始めてみました。

実際の運営では、いくつか改善す

べき点が明らかになりました。1つはセキュリティ上の要請から、多くの社ではセキュリティをがっちりかけた会社貸与のパソコンやスマホの使用を義務付け、記者たちはその制約の中でしかITに触れる機会がないことです。受講者の中に、基礎の基礎から学び直さなければならぬ人たちも見られました。17年度では、前年度の内容をブレイクダウンして、もっと分かりやすい、とつきやすい、そして学ぶ目的がはっきりしたプログラム「IT講座2017」に再編成しました。

平日午後というこれまでの開催時間は、一線記者が時間を割いて参加するには、当たり前ですが、難しかったようです。このため、2つの次期記者ゼミとも、通常業務になるべく支障の出ないよう木曜夕方6時から隔週で交互に開催(各ゼミ毎月2回)します。希望者が参加しやすいよう、各社編集局のご理解、ご配慮をお願いいたします。

2つのゼミのスタートは5月連休明けです。詳細が決まり次第お知らせします。多くの記者、特に一線の取材記者の参加をお待ちしています。

特別企画委員 橋場義之

■問い合わせはseminar@jnc.or.jpまでご連絡ください。

マイBOOK
マイPR

■里地里山エネルギー 自立分散への挑戦

河野 博子（読売新聞社編集局企画委員）

各地の小さいエネルギー利用を、足元から追った。そこで出会ったのは、地産地消、防災減災、地域活性化、地球温暖化抑止、安全の確保を念頭に、自然資源を使ったエネルギー利用に挑戦する人たち。その流れは、化石燃料の終焉へ向かう時代の太い底流とつながる。

米トランプ政権が発足し、全ての国が気候変動対策に取り組むためのパリ協定の力がそがれるのでは、と懸念される。本書を読み、懸念を杞憂に変える流れを感じてほしい。



中公新書ラクレ
842円

■熊本地震2016の記憶（岩岡中正、高峰武著）

高峰 武（熊本日日新聞社論説主幹）

記録と記憶の中から復興を 2016年4月の熊本地震から間もなく1年。「地震は遭ってみたいと分らない」というのが正直なところだ。本書は震度7に2回見舞われた熊本

地震を5部構成で考える。

1部「想う」で熊本在住の評論家・渡辺京二氏は「未来の人間のあらまほしき姿が、惨事の中から立ち現れた」と書く。2部の「詠む」は俳誌「阿蘇」主宰の岩岡中正氏の震災俳句、3部は夏目漱石も通った熊本市の古書店主の震災日記、4部は熊本大学が所蔵する約5万点に及ぶ細川家文書と地域史料から見る震災と復興の地域史、5部は資料編。

記録と記憶の中から復興を目指す1冊である。



弦書房
1944円

■科学報道の真相 ジャーナリズムとマスメディア共同体

瀬川 至朗（毎日新聞出身）

マスメディア報道の構造的な問題に迫る 新聞・テレビのマスメディア報道はなぜ市民の不信感を引き起こすのか？これが筆者の問題意識です。そのためにSTAP細胞事件、福島第一原発事故、地球温暖化問題という著名な報道事例を検証しました。科学報道を分析していますが、問題はむしろ「マスメディア共同体」

の構造にあります。ジャーナリズムの規範とされる「客観報道」の意味を多くのメディア人が誤解してきたことや「公平・中立報道」が抱える根本的な問題を点を明らかにすることにも努めました。



ちくま新書
950円

■昭和解体 国鉄分割・民営化30年目の真実

牧 久（日本経済新聞出身）

昭和を終焉させた政治経済最大の事件 戦後、公共企業体として再出発した国鉄は、国家というしがらみから抜け出せず、一方、民主化政策によつて生まれた強大な組合組織を抱えることになった。国鉄利権を手放そうとしない政治と経営陣の確執、経営と組合のせめぎ合い、怨念まで達した組合同士の対立。多くの複雑な要素が絡み合い国鉄解体を招いた。それは戦後政治の一翼を担った国労、総評、社会党の崩壊へとつながり、戦後の「五五年体制」は崩れ去った。

国鉄解体に至る昭和最後の20年間を多くの証言をもとに再検証したノンフィクション。



講談社
2700円

●賛助会員の会【3・6／参加…25人】

会田弘継・青山学院大学教授

トランプ大統領の就任から1ヵ月半、改めてトランプ現象を「忘れられた人々によるエリートへの反乱」と振り返り、今後の見通しを示した。「トランプの関心事はジョブス（雇用）だけ。まずはすでに動いているNAFTAの見直しに全ての人材を投入するだろうから、当面は日米関係はこのままだろう」

政権内で注目すべきキーパーソンはステイブン・バノン首席戦略官。大統領執務室の隣にいて、最も大統領にアクセスできる立場にいる。「没落している西欧文明を立て直すなければならない」という考えを持っていて、オルタナ右翼の中心人物といわれているが、ただ自分を支持するグループを利用して政治を動かそうとしているというのが本当では」とみる。

著書「トランプ現象とアメリカ保守思想」が注目され、トランプ大統領の当選以来、各メディアで引つ張りだこの状態が続いている。「こんなに忙しいのは、大阪社会部時代のグリコ森永事件の時代以来」と。（河野聡）



会 員 異 動 (2016年4月～2017年3月)

月	会員種別	プレス会員							法人・個人賛助会員		特別賛助会員	学生会員	全会員			
		法人(社)	基本(人)	個人A(人)	個人B(人)	個人C(人)	個人D(人)	名誉・功労(人)	(社)	(人)	(人)	(人)	合計(社)	(人)	対前月増減(社)	(人)
2016.4		133	741	334	60	75	839	12	65	144	99	129	198	2433	-1	-66
5		133	743	331	60	76	843	12	64	141	99	129	197	2434	-1	1
6		134	745	330	60	76	842	12	63	139	99	136	197	2439	0	5
7		134	746	335	58	76	845	12	64	141	99	137	198	2449	1	10
8		134	746	332	58	75	845	12	64	141	99	131	198	2439	0	-10
9		134	745	328	58	75	841	12	64	141	100	131	198	2431	0	-8
10		134	744	327	58	75	840	12	64	140	101	145	198	2442	0	11
11		134	746	323	58	75	837	12	64	140	101	151	198	2443	0	1
12		134	746	323	58	75	834	12	64	140	101	151	198	2440	0	-3
2017.1		134	746	323	58	76	827	12	64	140	100	136	198	2418	0	-22
2		134	746	322	57	76	825	11	63	137	100	144	197	2418	-1	0
3		134	746	322	57	76	823	11	62	135	100	146	196	2416	-1	-2

●第89回臨時社員総会

(3・28 会見場)

書面議決社員を含め出席社員計119社の出席をもって成立(定足数68社)、定款第25条の定めに従い、伊藤芳明理事長を議長に議事を進めた。

2017年度事業計画・同予算の理事会案を議決した。(2階、21階参照)

昨年5月の総会以降届け出のあった役員の一部交代を承認した。

●第123回総務委員会

(3・9 小会議室)

17年度事業計画・同予算の原案を作成したほか、日本記者クラブ賞・同特別賞選考委員会および第23期役員選出委員会を総務委員会委員で構成することを理事会に上程した。

出席 原田委員長、西村、増田、飯塚、深田、岩田、篠塚、川嶋、木村の各委員、伊藤理事長、水谷、荒木の両副理事長、土生専務理事。

●第596回理事会

(3・9 大会議室)

①17年度事業計画、同予算案を原案どおりに議決した。正味財産増減計算書予算で経常収益・経常費用とも3億8047万1000円の均衡予算で、経常外増減(特別会計)はない。個人D会員の会費値下げなどで会費収入が約900万円減少しているものの、人件費を中心に費用全般が減少しており、経常費用は前年度

に比べて1340万9000円減少している。ホームページのリニューアルと、これに関連した業務システムの更新に伴い、会報発行・ホームページ運営費を増額した。

②クラブ賞内規に従い、17年度日本記者クラブ賞・同特別賞選考委員会を総務委員会委員(委員長＝原田亮介理事)15人で構成することを議決した。

③総務委員会委員で第23期役員選出委員会を構成することにした。

④第89回臨時社員総会を3月28日に、第90回臨時社員総会を5月29日に開催することを決定した。

⑤左記の事項を土生専務理事が提案し、了承した。

▽16年度予算でホームページのリニューアルと4つの業務関連システム開発を行ってきたが、開発過程で想定していなかった機能や帳票が必要となり追加費用が発生した。クラブの会計処理規程により、予算総額は変えずに中科目間で予算のやりくりをする「流用」を行う。

▽松山幸雄名誉会員(78年度クラブ賞受賞者)からの寄付金300万円の取り扱いを17年度中に決める。

▽会員増加策の一環として行ってきた法人会員と法人賛助会員の入会金免除を17年度も引き続き行う。

出席 伊藤理事長、水谷、荒木の両副理事長、土生専務理事、西村、増田、原田、飯塚、深田、山元、岩田、篠塚、吉田、壺岐、村川、川嶋、木

村、西野の各理事、沖永監事。

●2017年度日本記者クラブ賞・同特別賞推薦委員会

(2・28 大会議室)

野村彰男氏を委員長に互選した後、1月末までに推薦のあった全候補について意見を付して、4月10日の選考委員会に報告することにした。

出席 野村委員長、会田、岡部、音、神志名、清水、白水、茅野の各委員。

●第381回会報委員会

(3・10 大会議室)

4月1日付で本社に異動する渡辺大祐委員(大分合同新聞)のあいさつの後、4月号の編集を協議した。

出席 飯塚委員長、稲沢、大辻、渡辺、吉澤、大寺、長崎、藤澤の各委員。

●第472回企画委員会

(3・15 10階Bホール)

総会記念講演のゲストが川村元氣氏に決まったことを事務局から報告した後、今後のゲストについて協議した。

出席 西村委員長、坪井、安井、倉重、脇、宮田、川上、軽部、石川、山本、瀬口、傍示、久保、島田、竹田、山崎、播磨、川村、和田、ワグナーの各委員。

●第475回会員資格委員会

(3・16 会見場)

4月1日付入会を審議し、理事会に答申した。

出席 増田委員長、菊池、越中、鈴木、早坂の各委員。

2017年度 正味財産増減予算書(内訳表)

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計					収益事業等 会計	法人会計	合計
	公1 記者会見等	公2 クラブ賞	公3 会報・HP	共通	小計			
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特 定 資 産 運 用 益		137,000		473,000	610,000			610,000
受 取 会 費				245,210,160	245,210,160		69,161,840	314,372,000
プレス会員会費収入				205,058,880	205,058,880		57,837,120	262,896,000
賛助会員会費収入				40,151,280	40,151,280		11,324,720	51,476,000
事 業 収 益						65,361,000		65,361,000
貸 室 料 収 入						41,316,000		41,316,000
飲 食 売 上 割 戻 料						17,796,000		17,796,000
施 設 機 器 賃 借 料						6,249,000		6,249,000
雑 収 益						127,000	1,000	128,000
受 取 利 息							1,000	1,000
そ の 他 の 雑 収 入						127,000		127,000
経 常 収 益 計		137,000		245,683,160	245,820,160	65,488,000	69,162,840	380,471,000
(2) 経常費用								
事 業 費	146,819,960	18,027,020	47,803,220	55,616,000	268,266,200	46,074,800		314,341,000
借 室 維 持 費	73,985,600			55,616,000	129,601,600	24,492,800		154,094,400
借 室 料	38,444,000			24,027,500	62,471,500	19,222,000		81,693,500
共 益 費	6,846,400			4,279,000	11,125,400	3,423,200		14,548,600
空 調・光 熱 費	3,695,200			2,309,500	6,004,700	1,847,600		7,852,300
ホール専用利用費	25,000,000			25,000,000	50,000,000			50,000,000
人 件 費	52,054,000	14,846,000	20,872,000		87,772,000	21,582,000		109,354,000
役 員 報 酬	6,800,000	1,360,000	5,440,000		13,600,000			13,600,000
給 与 金	30,597,000	9,362,000	10,315,000		50,274,000	15,476,000		65,750,000
賞 与・諸 手 当	14,190,000	3,992,000	4,972,000		23,154,000	5,884,000		29,038,000
厚 生 費	467,000	132,000	145,000		744,000	222,000		966,000
事 業 費	20,780,360	3,181,020	26,931,220		50,892,600			50,892,600
会 議 費	2,238,600	86,100	545,300		2,870,000			2,870,000
事 業 運 営 費	16,667,820	641,070	4,060,110		21,369,000			21,369,000
会報発行・HP運営費			21,071,000		21,071,000			21,071,000
クラブ賞実施費		2,150,000			2,150,000			2,150,000
運 営 雑 費	439,140	16,890	106,970		563,000			563,000
通 信 費	1,179,200	235,840	943,360		2,358,400			2,358,400
印 刷 費	155,600	31,120	124,480		311,200			311,200
交 通 費	100,000	20,000	80,000		200,000			200,000
管 理 費							59,130,000	59,130,000
借 室 維 持 費							18,369,600	18,369,600
借 室 料							14,416,500	14,416,500
共 益 費							2,567,400	2,567,400
空 調・光 熱 費							1,385,700	1,385,700
人 件 費							18,996,000	18,996,000
役 員 報 酬							2,400,000	2,400,000
給 与 金							9,942,000	9,942,000
賞 与・諸 手 当							6,506,000	6,506,000
厚 生 費							148,000	148,000
そ の 他 の 管 理 費							21,764,400	21,764,400
ク ラ ブ 管 理 費							15,694,000	15,694,000
機 器 備 品 費							1,000,000	1,000,000
消 耗 品 費							1,425,000	1,425,000
事 務 委 託 費							2,213,000	2,213,000
事 務 雑 費							715,000	715,000
通 信 費							589,600	589,600
印 刷 費							77,800	77,800
交 通 費							50,000	50,000
予 備 費							3,000,000	3,000,000
減 価 償 却 費							4,000,000	4,000,000
経 常 費 用 計	146,819,960	18,027,020	47,803,220	55,616,000	268,266,200	46,074,800	66,130,000	380,471,000
当 期 経 常 増 減 額	- 146,819,960	- 17,890,020	- 47,803,220	190,067,160	- 22,446,040	19,413,200	3,032,840	0
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益の部								
(2) 特別会計活動支出								
当 期 経 常 外 増 減 額								
当期一般正味財産増減額	- 146,819,960	- 17,890,020	- 47,803,220	190,067,160	- 22,446,040	19,413,200	3,032,840	0



寄贈書

■中嶋嶺雄著作選集

(中嶋嶺雄／『中嶋嶺雄著作選集』編集委員会編)



桜美林大学北東アジア総合研究所
セット価格 3万円(税込み)

鋭い中国分析で知られた中嶋嶺雄・国際教養大学初代理事長・学長(2013年2月逝去、享年76)の著作選集(全8巻)が、2年余りの作業の末、完結した。中嶋学長の教え子(筆者を含む)で、大学で教鞭を執る8人が編集委員となり、119冊という膨大な著作の中から後世に残すべき作品を厳選し、巻末の解説を手掛けた。

中嶋氏の一生を振り返ると、現代中国の研究者、国際関係論の教育者、そして晩年の大学経営者としての3つの顔があったことに気付く。

中嶋氏はそれぞれの分野で、寸暇を惜しんで健筆を振るい続けた。同時に生涯、バイオリン演奏を愛し、旅先で水彩画の絵筆を執る多才な人だった。28歳での処女作『現代中国論』から、秋田市にある国際教養大学の名を全国に知らしめた大学経営の手腕を披瀝した『日本人の教養』『学歴革命』などが収録されている。選集各巻の案内は出版元「桜美林大学北東アジア総合研究所」のホームページをご覧ください。

現在、中嶋氏の遺作となった論文類約5000点をPDF化し、ネット上で公開する「中嶋嶺雄デジタル・アーカイブス(仮称)」の作業も進行中だ。画像や音声、動画もアップし、21世紀型の碩学データベースを世に問いたいと思っている。

濱本 良一(読売新聞出身、国際教養大学教授)

■The Interpreter 小松達也さん 勇退■



ペレス・イスラエル副首相会見の通訳も務めた(2007年3月13日)

サイマル・インターナショナルの小松達也顧問(82)が3月末で退任した。

会議通訳の草分けで、サイマルの創設者の一人でもある。通訳は学生時代の「第1回原水禁世界大会広島」(1955年)から始めたそうだ。それから60余年、最前線での活躍は前例がないと思われる。

小松さんといえば、話芸の域に達した独特の間の取り方にあると思う。慌てず、淡々とこなれた日本語に置き変えていく。「訳がそのまま原稿になる」と言われる所以である。

「通訳は7割にしておく」。国連の首席通訳官を務めたフランス人のジャン・エルベール氏から教わり、それを心掛けてきたと話す。発言のポイントが何かを瞬時に判断する訓練を積み、その域に達するというのか。通訳術の奥義ともいべき領域だが、訳しすぎることをいさめた警告ともとれる。

「偉い人に会え、その人の人格に触れることができるのが、通訳の醍醐味」と言う。当クラブはまさにその醍醐味を提供してきたと思う。アイアコッカ、アラファト、キッシンジャー、サッチャー、マンデラ、ムバラク等々50人ものゲストの隣は小松さんの指定席だった。

「通訳がスピーカーから褒められても訳さない」。そこに、黒子に徹する小松さんの矜持がある。このことも通訳志願者には教えているんですよ、と微笑んだ。

(石川洋)

「写真回廊」の短文を担当します

今号から2年間、下記の4会員が「写真回廊」の短文を担当します。新聞・通信各社の写真部記者の「この1枚」に、自由な発想でエッセーを添えていただきます。



えぐち よしたか
○江口 義孝

1974年NHK入局。テヘラン、リオデジャネイロ、バルセロナの各支局、アジア総局長、国際部長、解説主幹など。現在、NHKグローバルメディア専門委員。



たに さだふみ
○谷 定文

1977年時事通信入社。ワシントン支局、経済部長、編集局総務兼解説委員、編集局長、常務取締役など。2015年退社。現在、ニッポンドットコム常務理事。



ながさき かずお
○長崎 和夫

1966年毎日新聞入社。政治部長、論説委員長、専務取締役など。2009年退社。



はたの
○秦野るり子

1982年読売新聞入社。経済部、ワシントン、ジャカルタ、ローマの各支局、調査研究本部主任研究員など。2016年退社。現在、富山国際大学教授。

レストラン* 価格は全て税込みです

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766・2731

和食 伊勢海老懐石 (6/2まで)

先付：鯛手まり寿司、菜の花サーモン巻 お
焼：鮎魚女葛打ち、玉子豆腐 造り：伊勢海老姿
造りほか 焼物：サーモン西京焼き、蛤クリーム
焼き 煮物：伊勢海老具足煮 揚げ物：穴子一本揚
げ 食事：ご飯、伊勢頭味噌焼 水菓子：季節の
果物 グラス冷酒付き (5,400円) (板長：大井由光)

洋食 おすすめコース (4/28まで)

プロシュートハムと春野菜のサラダ仕立て、ハ
マグリリのチャウダースープまたはコンソメスープ、
桜鯛のボワレと桜海老のリゾット・蜂蜜入りバル
サミコンソース、桜アイスクリーム、パン、コーヒ
ー付き (3,240円)。ランチ、ディナー (土曜はランチ
のみ)ともにご利用いただけます。(シェフ 黒須修一)

クラブのオリジナルグッズに新アイテム



ラウンジで販売中のク
ラブ特製オリジナルグッ
ズに新アイテムが仲間入
りました。クラブのロ
ゴマーク入りUSBメモリ

(1個1,080円、税込み)です。

シルバーとブラックの2色を使ったスタイリ
ッシュな見た目が特徴です。容量は4GBで大き
いデータの持ち運びにも便利。お求めは受付で。

「クラブゲスト」ページ 新スタイルで

会見した全ゲストを一覧形式で紹介する現在
のスタイルに変更して1年がたちました。数人
をピックアップして詳報する「会見レポート」と
共に掲載していますが、会員から重複感がある
との声もあり、会報委員会では第2弾の刷新を
決めました。

今号から「会見レポート」で紹介するゲストに
ついては、一覧ではゲスト名と開催日時などの
データのみを掲載します(4頁参照)。その他の
ゲストは会見内容をコンパクトにまとめた短信
をこれまで通り掲載します(3頁参照)。

ウェブサイトは速報性を重視しています。会
見終了後2、3日後に、会見動画と共に全ゲス
トの「会見レポート」を読むことができます。ご
活用ください。

HP更新情報 <http://www.jnpc.or.jp/>

■会見詳録 会見の全文文字記録版

●「トランプ政権：米国と世界の行方」

田中均・日本総合研究所国際戦略研究所理事
長、ピーター・ランダース・ウォールストリート・
ジャーナル東京支局長(2017.2.20)

クラブの電話 ダイヤルイン

- 和食レストラン(9階) ☎3503-2723 ●会員事務 ☎3503-2727
- 洋食レストラン(10階) ☎3503-2766 ●経 理 ☎3503-2728
- 貸室予約、宴会打ち合わせ ☎3503-2724 ●クラブ行事への申し込み ☎3503-2722
- 受 付 ☎3503-2721 ●会見申し込みアドレス kaiken@jnpc.or.jp

会員現況

- 法人会員：134社 ●基本会員：745人 ●個人会員：1,266人
- 法人・個人賛助会員：63社・138人 ●特別賛助会員：102人
- 名誉・功労会員：11人 ●学生会員：106人 計：197社・2,368人

S&Pが法人賛助会員として入会

世界26カ国で信用格付けおよび信用リスク分
析の提供を行う格付会社「S&Pグローバル・レ
ーティング」の日本法人、S&Pグローバル・レ
ーティング・ジャパン株式会社が法人賛助会員
として入会しました。

同社は主に日本企業や、企業等が発行する債
務に信用格付けを提供する事業を行っていま
す。入会会員は下記の方々です。

山本武成 代表取締役社長

石田俊也 広報マーケティング部長、ディレクター

ゴルフ会 参加者大募集中

春のゴルフ会を下記の要領で開催します。ふ
るってご参加ください。

- 日 時 5月23日(火)午前8時10分集合
- コース 磯子カンツリークラブ(横浜市磯子区)
- 競 技 18ホール ストロークプレー
(ハンディキャップ制)
- 賞 品 優勝者には優勝カップとノルウェー
産サーモン1尾を贈ります。その他に
も賞品を多数用意するほか、参加者
全員にもれなく参加賞を用意します。
- 会 費 5,000円(プレー代は約22,000円)
参加ご希望の方は事務局の河野
(03-3503-2764)までご連絡ください。

Wi-Fi環境を強化しました

9階南側(ラウンジ側)と10階ホールで使用で
きる無料Wi-Fiの利用キャパシティを増やし
ました。これまでは一度にアクセスできる台数
が10台程度でしたが、9階南側、10階ホールと
も60台程度まで同時接続が可能になりました。
アクセスポイント名とパスワードは、それぞれの
フロアに掲示してあります。

なお、9階北側(日比谷公園側)は、すでに30
台程度の一斉接続に対応しています。

あわせて、大会議室と小会議室内には有線
でネットにつなげられるようにLANケーブルの接
続端子を設けました。どうぞご利用ください。

<訃報>

浅川博忠会員(山形新聞社客員論説委員、74
歳)が2月24日、村岡博人会員(共同通信出身、
85歳)が3月13日死去されました。ご冥福をお
祈りいたします。

会報委員会

委員長＝飯塚 浩彦
委 員＝稲沢 裕子 井上 洋一 大辻 一晃
大寺 廣幸 鈴木 仁 長崎 和夫
藤井 良広 藤澤 秀敏 吉澤 正一
渡辺 大祐

(事務局：長谷川和子 村田 茜)

☎03-3503-2752 FAX 03-3503-7271

撮影：川上^{かわ かみ} 智世^{とも よ}（東京新聞写真部）



雨の中、横断幕を手に「共謀罪」法案の閣議決定に抗議する人たち＝3月21日 首相官邸前

衣の下の鎧

平家物語の「教訓状」には、後白河法皇を軟禁しようとして兵を集めた平清盛のもとに、父を諫めるために重盛が平服で会いに来るくだりがある。清盛は慌てて鎧の上に法衣をまとったが、胸元から鎧がのぞいていた。

政府は、「共謀罪」を衣替えて「テロ等準備罪」を新設する法案を閣議決定した。「共謀罪」とは別物、対象は組織的犯罪集団で市民団体ではない、国際組織犯罪防止条約の締結のためなどと説明している。その一方でこの法案が成立しなければ、オリンピック・パラリンピックが開催できないとも言いはじめた。

IOCの総会で、東京は世界一安全な都市だと宣言した。あれから4年、東京の安全性は脆弱になったのだろうか。それともテロ組織が、東京を標的にしているという情報があるのだろうか。もしそうでないのなら安倍首相の答弁は詭弁といわれても仕方がない。

令状なしのGPS捜査にみられたように、捜査機関は時に法規を逸脱することもある。対象を組織的犯罪集団に限るというが、日弁連は市民団体が処罰の対象になる可能性があるとしている。

ノーベル賞作家アレクシエーヴィッチさんは、ロシアでは革命後から現在に至るまで国民に自由はなかったし、今でも国民は自由というものを全く知らないと言った。「自由」を制限するような法律の制定は、決して賢い方法とは思えない。

この法律制定の本当の狙いは、2020年の祭典のもとと先に照準を合わせた別の目的があるのではないかとも思えてくる。

（江口 義孝）